

「ボランティア活動に興味があるワカモノのための体験型セミナー」

- 1 **趣 旨**：ボランティア活動について理解を深めるとともに、ボランティア活動をするために必要な知識・技術を学ぶ。また、今後のボランティア活動についての意欲を高め、青少年教育施設や地域社会等で活動できるボランティアを育成する。
- 2 **日 時**：令和元年6月15日（土）12：30～16日（日）16：00
- 3 **場 所**：国立淡路青少年交流の家
- 4 **対 象**：子どもたちと関わるボランティア活動に参加したい、もしくは興味のあるワカモノ
- 5 **参加者**：45名
- 6 **プログラムの内容**：

ボランティア活動に興味があるワカモノのための体験型セミナー

ボランティアってなに？がわかる！
 □ボランティアの基礎知識が学べる入門編です
 □ボランティアの種類、ワークシートの活用方法など様々な活動を通じてボランティアについて考えます

あなたのやりたい！が見つかる！
 □淡路交流の家での活動機会は無限大です！！
 □様々な活動を通じて自分のビジョン発見にもつながります

将来社会で役立つ様々なスキル獲得につながる！
 □淡路のセミナーは参加型！！
 □コミュニケーション力アップにつながります！
 □現在ボランティア登録者は約70名！
 □たくさんの仲間とつながることが出来ます
 □子どもと関わる機会もたくさんあります
 □将来子どもに関わる仕事を考えたい方は是非参加して下さい！

2019 **6.15(土) 12:15** **6.16(日) 15:50**

国立淡路青少年交流の家
 (兵庫県淡路市有馬町塩屋町277-39)

対象 ボランティア活動に興味のある、中学生・高校生・大学生・社会人
 (小学生・中学生・高校生・大学生・社会人)

費用 2,300円
 (授業料を含む)

申込 申込書・申込金(2,300円)を提出してください
 (申込書は活動前までに提出してください)

申込 申込書・申込金(2,300円)を提出してください
 (申込書は活動前までに提出してください)

申込 申込書・申込金(2,300円)を提出してください
 (申込書は活動前までに提出してください)

1日目

12：30～ 開講式・チェックインミーティング

交流の家職員によるチェックインミーティングからセミナーが始まった。「Q. セミナーへの参加動機は？」や「Q. セミナーに期待することは？」などの問いかけに対して、参加者一人一人が自分の思いを言葉で表現していった。緊張の表情を浮かべながらも、積極的に取り組もうとする参加者が多く、お互いのことを知るよいきっかけとなった。



13：30～ コミュニケーション実習

交流の家の課題解決型プログラムであるコミュニケーション実習に挑戦してもらった。今回は交流の家職員の指導のもと、始めに「匠の里」を実施した。最初は、初めて会うメンバーとうまくコミュニケーションが取れずに、苦戦する班が多かった。次に、「ミップウォー」を実施した。難易度が上がったにも関わらず、解決できた班が半数以上あり、メンバーとの関わりを徐々に深めていくことにつながった。最後にふりかえりを行い、「できた・できなかった以上に活動中の取り組み方が大切だ」や「グループの中での自分の関わり方や立ち位置が難しかった」などの意見があがり、多くの参加者が改めてコミュニケーションの大切さに気がついた様子であった。



19：30～ 講義『青少年教育施設について』

午前中に行ったコミュニケーション実習のおさらいをしつつ、活動プログラムとその意図について考えた。その中で、「青少年教育施設ってどんなところ？」や「今回のボラセミの目的は？」などを問いかけ、参加者に考えてもらった。参加者からは、「教育施設」や「仲を深めるため」など様々な意見が交わされた。意見をまとめ、活動内容以外にも教育のための様々な仕掛けが施設に施されていることを付け加えて解説し、青少年教育施設について理解を深めてもらった。



20：40～ 教育事業『活動紹介』

淡路の代表的な4つの教育事業「ジュニアチャレンジ淡路島一周」、「AWAJI」



未来探検隊」、「親子ちゃれんじ」、「映画を創ってみよう！！」について、交流の家職員から紹介をした。特に「映画を創ってみよう！！」では、昨年度のアジア国際子ども映画祭で法務大臣賞を受賞した3分間のショートムービーを鑑賞し、「ジュニアチャレンジ淡路島一周」では、昨年度の活動の様子をまとめたムービーを交えることで、多くの参加者が淡路の活動に興味を持ってくれたようである。それぞれの事業の魅力ややりがいについて、参加者なりに様々なことを感じていたようであった。

2日目

9:00～ 『安全管理講習』

安全管理講習ではボランティア活動に携わるにあたって重要なことを体験型で実施した。「フィールドワーク」、「救命救急講習」の2つの内容を、講義や実技によって学んでもらった。

フィールドワークでは、初めて淡路交流の家を訪れたという参加者から、様々な意見があがった。救命救急講習では、各グループに具体例を提示し、ロールプレイを行ってもらった。ボランティア活動中、実際に起こり得ることということもあって、どの参加者も真剣に取り組んでいた。参加者からは「実際にやることは難しいが、その分、体験するからこそ学べたことはたくさんあった」という意見があがった。

12:50～ 『ボランティアとは?』

「ボランティアとは?」というテーマで、大本所長の進行によるフリップディスカッションを行った。「国立淡路に来る子どもたちのニーズは?」や「国立淡路でボラをしてみたいあなたのニーズは?」などを参加者に考えてもらった。参加者からは「非日常感を味わうため」や「自然と触れ合うため」などの活発な意見交換が行われ、お互いに様々な刺激を受けていた。また、参加者自身のボランティアに対する気持ちや考え方にも影響を与えているようだった。セミナーの最後には、「国立淡路青少年交流の家の事業にはボランティアスタッフの力が不可欠である。ぜひ、一緒に活動し、よりよい事業をつくっていこう」という心のこもった言葉が贈られた。

7 参加者の声

- ・体験型のセミナーだったので、より記憶に残りやすかった。
- ・新しい発見や新しい自分に出会えた。これからもボランティア活動に積極的に取り組みたい。
- ・いろいろ考えさせられ、楽しめる事業だった。
- ・自分のやりたいと思えることを見つける機会になった。
- ・普段できない経験を積むことができた。
- ・すべての活動が、優しく、和やかな雰囲気だったので、初参加でも十分楽しめた。
- ・グループワークを通して年代の違う方々と意見交換をすることができ、より気づきが深まった。

8 所感

- ・セミナーの満足度は高く、今回の参加者が今後の教育事業にボランティアとして参加してくれることを期待する。
- ・参加者のこれまでのボランティアの考え方にも影響を与えられたようで、「視野が広がった」や「価値観が変わった」という意見が聞かれたことは、今回の目的である「学び」につなげられたのではないかと感じた。
- ・昨年度末に作成した、ボランティア育成ビジョンを活用することで、国立淡路青少年交流の家のボランティアのことをわかりやすく参加者に伝えることができた。今後もうまく活用していきたい。
- ・当日中に参加者の半数以上の方が新たに法人ボランティア登録をしており、その後もWEBからの登録が見込まれる。近日開催予定のボランティア募集の案内を行い、今後の定着につなげたい。
- ・現在活躍中の淡路のボランティアスタッフも今回のボランティア養成セミナーのボランティアを通して、様々なことを感じ成長できていると感じた。

